

30年7月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 7月1日～ 28年7月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
仕入動向	国産材製材品	16.7	△ 11.1	5.6
	外材製材品	5.6	0.0	0.0
	構造用集成材	12.5	6.3	12.5
消費動向	国産材製材品	11.1	△ 5.6	0.0
	外材製材品	27.8	△ 5.6	11.1
	構造用集成材	12.5	0.0	12.5
在庫動向	国産材製材品	0.0	△ 5.6	5.6
	外材製材品	△ 11.1	△ 16.7	△ 16.7
	構造用集成材	△ 12.5	△ 18.8	△ 12.5

・国産材製材品の仕入動向は7月の増加から8月は減少、9月は再び増加に。外材製材品は7月の増加から8月、9月は横ばいに。構造用集成材は3カ月連続増加。

・国産材集成材の消費動向は7月の増加から8月は減少、9月は横ばいに。外材製材品は7月の増加から8月は減少、9月は再び増加に。構造用集成材は7月の増加から8月は横ばい、9月は再び増加に。

・国産材製材品の在庫動向は7月の横ばいから8月は減少、9月は再び増加に。外材製材品は7月の横ばいから8月は減少、9月は再び増加に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/7月	8月	9月
受注	27.8	△ 5.6	11.1
加工	38.9	△ 11.1	11.1
受注残	5.6	△ 5.6	0.0

・プレカット工場の受注、加工動向は7月の増加から8月は減少、9月は増加に。

・受注残の動向は7月の増加から8月は減少、9月は横ばいに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・国産材、外材製材品とも生産順調で仕入は容易。値崩れ心配。空梅雨で現場は順調に推移。在庫は時期的に増えないように調整。
・海外からの入荷が安定しているため、外材製材品、構造用集成材は安定した仕入動向。翌々月から外材の消費は増加すると思われる。消費が増加しても仕入れはそのままのため在庫は減。

(受注動向)

・受注・加工・受注残ともそれぞれに安定している。
・翌々月から受注が増えると思われる。
・横ばい予想だが、7月～9月までは例年通り受注が多い。盆まで上棟、年内完成の傾向あり。